

カナツー，創業55周年・設立50周年と 小倉省二会長の傘寿の記念式典開催

～国内外関係者の団結，チャンス共有でさらなる飛躍を～

(株)カナツーは去る05年11月22日，創業55周年および設立50周年，そして小倉省二会長の満80歳の傘寿を迎える節目を記念し，東京都千代田区の神田明神会館にて記念式典を開催した。

同社の創業は昭和25年の11月23日，設立は昭和30年1月13日で，創業者の小倉省二会長の傘寿と合わせ三重の意義を重ねて式典が催されたもの。今後の同社のさらなる飛躍を期して，国内外で活躍する同社関係者が集って団結を深め，チャンスを共有しようとの思いも込められている。

同社における記念式典としては，小倉壽之社長が社長に就任した5年前に開かれた「カナツー協カグループ会」以来の開催となる。この間，業界全体がデフレ経済下で低迷を続けていたこともあり，同社でも行事の自粛をしてきた経緯がある。

今回の式典は株主，国内外の仕入先，協力会社，金融機関などの関係者のみを招待，当日は同社初の試みとなる全社記念日休業として盛大に執り行われ，来賓100名のほか，同社の海外事業所勤務者を含む全社員50名と総勢150名が集まった。

*

式典では冒頭，「カナツー55年の歩み」を10分間に編集したDVDを上映した後，小倉省二会長が登壇し，参会者へのお礼とともに創業から現在までを現役として歩んだ軌跡を語り，挨拶を行った。

続いて設立時から監査役として同社を支え続



創業から現在までの軌跡を語る代表取締役小倉省二会長

けてきた日本監査研究学会理事で川北博事務所代表の川北博氏，創業以来ゆかりの地である神田神社の宮司の大鳥居信史氏から来賓祝辞が贈られた。

会はその後もスムーズに進行し，会社と社員の親睦会である金睦会からは小倉会長に傘寿の記念品を贈呈。また創業当時から公私両面にわたり会長を支え，苦労をともにしてきた会長夫人にも，内助の功を感謝し花束贈呈が行われた。

次にカナツーの株主であり取締役で同会長の義弟である中橋タイル(株)の代表取締役 中橋秀夫氏による乾杯が執り行われた。

その後は歓談に移り，各方面から届いた祝電の朗読が行われた。



川北博事務所代表
川北博氏



中橋タイル(株)代表
取締役 中橋秀夫氏



バンドをバックに社歌を歌う小倉社長。この後、社員全員での合唱に変わっていった



神田明神で社員一同による記念写真

引き続き、主催者を代表して、代表取締役社長 小倉壽之氏が力強く以下のように挨拶を行った。

「明日が本来の創業55周年の記念日であり、私の経営心の拠り所の一つである『温故知新』の核をなす人



代表取締役社長
小倉壽之氏

物、父であり創業者で現会長の小倉省二が誕生日を迎えて、満80歳の傘寿を迎えます。

当社の社標は、小倉省二会長の故郷、加賀前田百万石の梅鉢の紋所『祖先崇拜の信条』を原型とし、これに魂を吹き込むようなイメージでデザインを施しています。円5体が中央の円のカナツーを中心に取り巻いております。周りの円は『天』と『地』を持って社会を表し、『仕入先と協力会社』、『得意先』、『社員』の結束と繁栄を象徴しています。

本日を記念日休業とさせていただいたのは、これら6つの体が共に前進し、相互に発展して行く喜びを分かち合う機会として、重要な体の1つである『社員』の全員を設立以来初めて、全事業所からここに集めました。

またこの式典では、私は『背伸びをしない、地に足を着けた堅実な経営を全うしたい』との信念と社長就任わずか5年目の立場を自覚しまして、身近な皆様のみならず声をかけてのささやかな祝宴の場とさせていただきます。私はこれからも、『ふるきをたずね』を大事な経営の拠り所にして、父譲りの勇猛果敢な『新しきを知る』の経営をさらに推進する所存であります。

今後も社長、役員、全社員が、台車製造業界初のISO9001の認証取得企業として、顧客重視

の視点で製品開発やサービスを促進し、強力かつアグレッシブな営業活動でさらなる社会への貢献と業績向上を目指していきたい。そしてこの誓いの永続的な実現に向けて、今後の業界全体を巻き込むであろうグローバルなボーダレス時代到来の中で、さらなる飛躍に挑戦をするカナツーの『大事な礎』として、さらに精進を続けていきます」

*

続いて、前内閣総理大臣、衆議院議員 森喜朗氏が祝辞を述べた。森氏と小倉会長は共に金沢市根上町の出身で、森氏が政界で活躍する以前から親しい関係であったという。同郷の帝国ホテル創業者犬丸氏やプロ野球選手松井秀樹氏らの話題を交えた素晴らしい祝辞で会場は多いに盛り上がった。



前内閣総理大臣で
衆議院議員
森喜朗氏

次に民族楽器による演奏が会場内で行われた。小倉社長の友人で構成される「むげん」メンバーが民族楽器のアンサンブルショーを披露、小倉社長もマイクを手に、創業15周年に制作された社歌を社員全員で唱和する一幕も見られた。

式典は終盤を迎え、主催者を代表し常務取締役小倉昭博氏が閉会の挨拶を行い、取締役国内営業部長 高松俊博氏の発声による万歳三唱で、来場者全員の声が会場中に響き渡った後、閉会となった。来賓は、「感動ある、意義深い式典」との絶賛の声と、今後もカナツーと共に前進する集団としての団結心の強化を誓い合っていた。

MF